

化学物質が引きおこす問題

「化学物質」は身近なもの

わたしたちは、普段さまざまな化学物質を利用しています。



ぼくたちのことも
考えて使ってね。



化学物質が人や生き物に与える影響

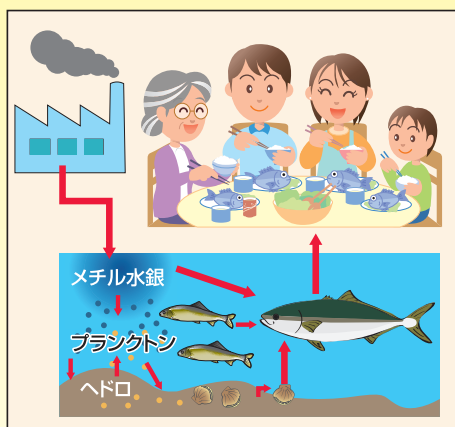
化学物質は、わたしたちの生活を便利で豊かにしてくれますが、使い方を間違えると、人や生き物に悪い影響を与えます。体を正常に保つ機能を乱して健康を害したり、一部の魚ではメスばかり増えてしまうなどの異変が実際におこっています。

水俣病について

今から約60年前に、熊本県水俣市のチッソという会社の工場が水俣湾に排出したメチル水銀が原因となって発生した公害病です。水俣湾内の底にたまった、水銀を含んだ泥は、鉄の板で囲われた場所に集めて埋め立てられました。その結果、水俣湾はきれいになりました。しかし、水俣病の特徴である手足のしびれや、視野が狭くなるなどの症状で今も苦しんでいる方たちがいます。

メチル水銀が人の体内に入り込むまで

海に排出されたメチル水銀をプランクトンが食べ、そのプランクトンを小さい魚が食べ、その魚を大きい魚が食べることで濃度が高くなります。汚染された魚を食べることで、高濃度のメチル水銀が人の体内に取り込まれることになります。



資料：環境省

水俣病の経験を活かした水俣市の取組

メチル水銀による環境汚染と水俣病を経験した水俣市は、その経験を活かし、環境に負荷をかけずに、環境と調和していく街づくり・暮らしづくりを進めています。

さまざまな取組が評価され、平成23年に「日本の環境首都」に選ばれました。

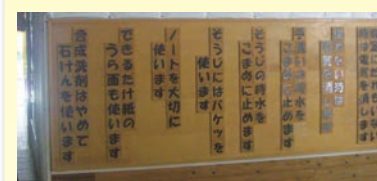


資料：水俣市

環境にいい学校づくり

各学校で、「環境にいい学校づくり」のためにやりたいこと（電気をこまめに消す、ごみを減らすなど）を5項目以上宣言します。その宣言に基づいて取り組んだことを記録して、改善していきます。市内の全小中学校・高校が導入しています。

宣言の例



写真：水俣市

取組の記録の例



写真：水俣市

家庭ごみの24種類分別

平成21年に「ゼロ・ウェイスト宣言」を行い、色などでびんを6種類に分けるなど、家庭から出るごみを全部で24種類に分別して収集しています。

資源ごみ収集の様子



写真：水俣市

水俣条約

平成25年10月に水俣市と熊本市で開かれた国際会議で、国際的な水銀の管理の仕方を決めた「水俣条約」が採択されました。この条約により、水銀を使った製品の輸出入が平成32年から原則禁止されることになりました。

もっと調べてみよう！

水俣病について分かりやすく学ぶことができます。

「水俣病とわたしたち」(水俣病資料館) http://www.minamata195651.jp/pdf/minamata_watashitai.pdf

会議の様子



写真：環境省